



第1会場●2F 第4研修室

■司 会／井口 秀明 熊本県教育庁教育総務局社会教育課 社会教育主事
今崎 宏 福岡県教育庁福岡教育事務所 主任社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 安養寺サタデースクールのふるさと体感プログラム

10:50~11:20

田中 靖子(島根県奥出雲町) 安養寺サタデースクール指導員
高橋 伊尚(島根県奥出雲町) 奥出雲町教育委員会社会教育課

学園長が住職である「安養寺」を拠点とした土曜日の自然塾である。遊び・学び・修養の3つを柱に掲げる。子ども達は今自然を知らない。外遊びも、異年齢の群れの遊びの体験も減少し、農作業の手伝いや役割分担から学ぶ機会は消滅している。安養寺サタデースクールは、子どもの「応援団」を目指して、子どもの欠損体験を補完し、人に繋ぎ、自然に繋ぎ、ふるさとを体感させる。教職体験のある人々の支援を得て、その専門的知識を活用し、自然の中で、異年齢集団を生かしたダイナミックな遊びの姿を創り出そうとしている。課題は「応援団」の拡充とプログラムの開発である。

2 「学びのカフェ」物語～ひとが変わり まちが変わる～

11:25~11:55

河内 ひとみ(広島県大竹市) 大竹市立玖波公民館 職員

「学びのカフェ」の初めのねらいは公民館のイメージチェンジ、「おしゃれな学び空間」を作ることであった。4年目の今日では、公民館が学校と地域を繋ぎ、地域課題の解決に向けて活動するようになった。開催は月1回、土曜日。生活に密着したテーマを選び、専門講師の講座に加えて、参加型の交流を重視した。2年後には「地域ジン学びのカフェ」、さらには「地域ジンまちカフェプロジェクト」へと進化し、中身の重点は地域課題の解決に移行した。受講者と市行政との協働プロジェクトや「中学生地域ジン」も誕生した。参加者は8倍になり、ネットワークは21団体を繋ぐまでに成長した。

3 町の人材、島の資源を生かした「いせん親子チャレンジ教室」

12:00~12:30

富山 勇生(鹿児島県伊仙町) 伊仙町教育委員会 社会教育課係長

事業の企画・立案は「社会教育委員の会議」が受け持ち、連合青年団の協力を得て実施している。子どもは家族同伴の参加を条件とした体験教室で、プログラムの中身は元より、「家族の絆」、「島の自然や文化の体験」「地域人材の活用」、「青年と保護者の交流」などを目的としている。開催は第3土曜日で、年12回、有料。住民を講師に、活動は徳之島全域で展開している。子どもと組み合わせたことで参加家族数が増加し、島の資源の再発見、郷土愛、地域人材への評価の向上、保護者の意識変革などが見られ、PTAや子ども会活動への波及効果も顕著である。